

平成20年6月14日発生 岩手・宮城内陸地震

湯浜地区河道閉塞（天然ダム）の調査結果と 今後の迫川監視計画について

（1）湯浜地区河道閉塞（天然ダム）の調査結果について

国土交通省東北地方整備局では、融雪後の湯浜地区の河道閉塞（天然ダム）の状況を把握するため、5月18日に土砂災害に関する専門家（国土技術政策総合研究所砂防研究室 小山内室長）による現地調査を実施し、その結果について別紙1のとおり栗原市長に報告しました。

（2）今後の迫川監視計画について

国土交通省東北地方整備局では、迫川について、冬期間積雪のため一部中断していた監視カメラや水位計等による、河道閉塞（天然ダム）の監視を再開し（別紙2参照）、関係機関との迅速な情報連絡体制を構築し監視態勢の強化を図っています。

監視カメラの映像や水位計等の値は下記のホームページで公表しています。

なお、他の地域においても同様に監視態勢をとっております。

○国土交通省東北地方整備局ホームページ 「岩手・宮城内陸地震関連情報」
http://www.1a.thr.mlit.go.jp/Bumonlan/B00097lan/K00360lan/iwatemiyagi_jishin/intrafrm.html

○別紙1：融雪後の湯浜地区の河道閉塞（天然ダム）の状況について

○別紙2：迫川監視計画（平成21年5月20日時点）

（発表記者會）

宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、古川記者クラブ

（問い合わせ先）

東北地方整備局 河川部 地域河川調整官 小関 賢次（内3517）
河川部河川計画課 建設専門官 小竹 利明（内3616）
住所 仙台市青葉区二日町9-15
電話 022-225-2171（昼間）

融雪後の湯浜地区の河道閉塞（天然ダム）の状況について

①河道閉塞（天然ダム）の天端付近（下流から撮影）



平成 20 年 11 月 7 日撮影



平成 21 年 5 月 18 日撮影

河道閉塞（天然ダム）の天端付近は昨年秋と比べて大きく変化していない。

②河道閉塞（天然ダム）天端の直下流付近



平成 20 年 10 月 15 日撮影



平成 20 年 11 月 7 日撮影



平成 21 年 5 月 18 日撮影

河道閉塞天端の直下流は、形成時点と比べて細粒分が流され、河道が拡幅されながら低下している。

③天然ダムを形成する土塊の中流部



河道閉塞（天然ダム）の全景（おもに下流側）

天然ダムを形成する土塊の中流部は勾配が比較的緩く、谷幅が一気に広がっているため、仮に天端付近で浸食がすすみ礫が移動したとしても、この地点付近で堆積するものと考えられる。

④天然ダムを形成する土塊の下流部



天然ダムを形成する土塊の下流部は河床勾配が比較的急になるため、出水による浸食を防ぐ必要がある。

この部分を固定すれば、土塊下部までの急激な侵食を防ぐことが期待できる。

H20.6.14発生 岩手・宮城内陸地震

迫川監視計画 (H21.5.20時点)

(※その他ヘリコプター監視も実施しています)

